

## 第一外科

# 外科看護日誌の確立

発表者 中 島 ノリエ

第一外科看護婦一同

### I 研究目的

やりっ放しで行きあたりばったりの看護から計画に基づいた看護の実践とその向上をさせる。

### II 今までの看護の経過からみる問題点

隔週に詰所会がもたれる中で職場の問題や看護にみる問題点が出されたり、勉強会がもたれ、又患者アンケートをとる中で看護婦不足の切実さを感じたりする中で2.8をすゝめる会の発足など一定の努力をしてきました。しかし看護の実状をみると一人一人の看護婦が自己流の看護を行い、看護上のよい教訓や経験を持っていてもみんなのものになり得なかった。この点一つをみても看護の系統的实践(①看護計画をたてる ②看護を実施する ③看護の中での評価)に欠けているし、一人一人の創意工夫や教訓がもっと系統的な積み重ねとなっていくことが必要である、ということと、現在一外の中にみる看護形態を分析してみると、機能別看護である。係が廻診、注射、検温、手術、その他係と分かれているため、検査ばかりに一日終る人と、注射係は大量の注射をやりこなすためにやっ気になる、そのため上申をきかない一日勤務のスタッフであることなどと深夜2人は今の所、最低の所で問題ないとして、準夜2人は落着いていて丁度よく重症1人出たり、処置が増えたりすると、全く全体の把握ができなくすぐにバランスを失ってしまう状態を期たしやすい、準夜補充のため OP前日は午後1時から5時まで、OP日は1時から9時までという外野的な役割を持つ勤務者を作っています。現在の充分でないスタッフの中で変則的勤務又は機能的な看護体制が余議なくされる。これらのいくつかの問題点の中で特に一つの形となった患者経過の記録の必要性が出されてきました。

今までも看護日誌という形ばかりのものがあつたのですが、徹底して記録されなかつた点それが活用されなかつた。特に問題とされる患者に対しては医師の別紙オーダーに書きこまれてしまつたりして患者の経過を追うのみの物で、みんなで一致した看護計画を持つ独自性に欠けていたことが大きな問題とされました。まずよい看護のオ一歩として今までの実行されなかつたものを整理し実行する。

- ① 看護日誌をつける。
- ② カンファレンスをもつ。

看 護 日 誌

第 1

科 病棟 号	姓 名	男 女 才 昭	明 大 昭	年 月 日 生	職 業
病 名				受 持 医	
入 院 年 月 日	昭 和 年 月 日	転 帰	住 所	血 液 型	
退 院 年 月 日	昭 和 年 月 日		連 絡 先	型	
日 時	処 置	記 録			
	現 病 歴 現 症				
	既 応 歴				
	家 族 歴				
	看 護 計 画				
	目 標				
	問 題 点				
	具 体 策				



### Ⅲ 看護日誌を確立させるために

○書きよいわかりやすいものにするために一目みてこの人の病気はどんなものであるか又、どんなOPがなされ、どんな問題点を持ち合わせているかが明確にされていることが重要である。

○ゴム印の作成(説明する)

(印かんを押し説明する)

### Ⅳ カンファレンスの実施

最初の計画月、木(医師ミーティングの日)にする計画が処置や準備のために実行できず再度検討する中で朝の上申の中で問題点を出しあい今までよりも時間をかけた上申をする。朝の上申の中でその日の看護計画と問題点についてカンファレンスする。

### Ⅴ この研究にあたり

この研究発表の問題を提起される中で、看護って何だろうということが詰所会の中でも問題とされてきた問題提起のまゝで探究し、よりよいものにしていく努力がどうしてもなされませんでした。これを契機に看護の追求が具体化されてきました。今日の発表も今後の実践にかかっておりますが次回の発表の中で成果と実績を明らかにしてゆきたいと思えます。